

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ナノデス・ナイン	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.572	△RG	0.060	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ナノデス・ナイン

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：ナノデス・エイト

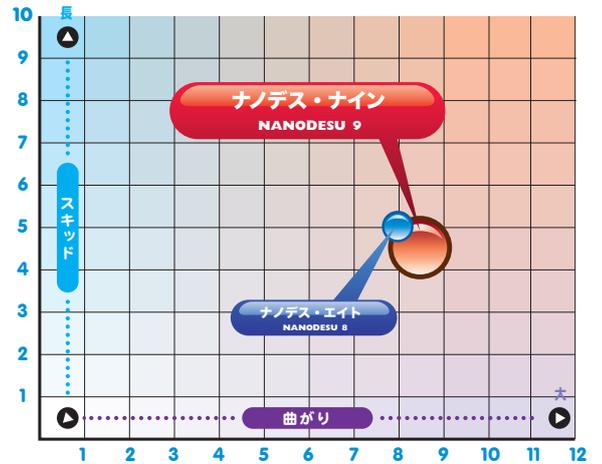
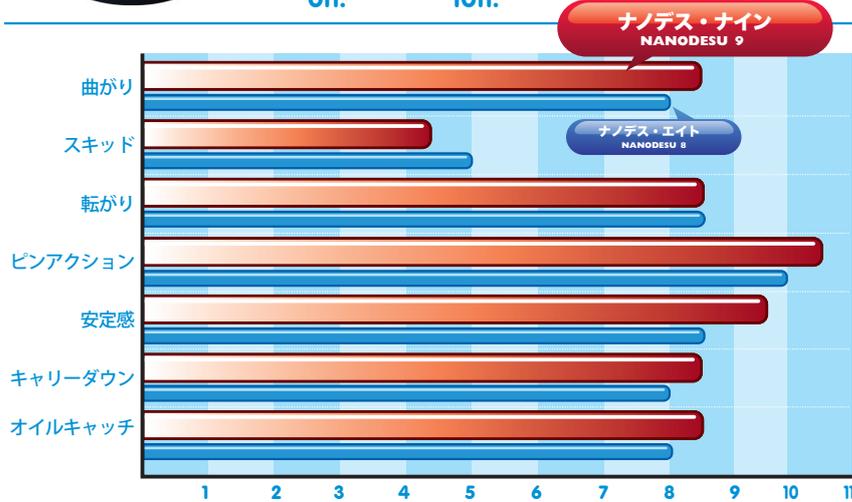
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンクス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

歩みを止めず、常に進化を求める日本エポナイト社は業界初である8ポンドコアのナノデス8、8ブラックを発売してきましたが、ここで新たな領域の9ポンドコアに挑戦してきました。新開発の9ポンドコアはナノデス8、8ブラックに使用した8ポンドコア(∞4×8 HV Core)を比重変更し、9ポンドコア(∞4×9 HV Core)として形成しました。

8ポンドコアのナノデス8から感じたことですが、コアの比重が上がるごとに直進性が増し、手前の走り具合が非常にクリーンに感じます。無論カバーストックでスキッド具合も変わりますが、ナノデス8ブラックはNano-Thane2.0 Solidで4000アブラロン加工ですが、Nano-Thaneのキャッチ力よりもコアの直進性が強く出ていて、曲がり始めもやや奥になる傾向にあります。その直進力を調整するのがカバーストックと表面加工ですが、今回のナノデス9は前作までのNano-Thane2.0 Solidカバーから一段階強めてNano-Thane3.0 Solidを使用し、表面加工は同じに仕上げました。そうすることで9ポンドコアのもつ直進力とNano-Thane3.0のもつキャッチ感が絶妙なマッチングをおこし、滑らかでありながらしっかりと曲がり、さらなる劇的なピンキャリアを実現することができました。私たちが開発に携わり感じたことは、通常のコアとはピンの飛び方が明らかに違うということです。ピンに当たった瞬間の飛び方は独特であり、先入観を持たずに投球しても全く別物だと分かります。ピンを押し込む感じ、ミキシングする感じ、重厚感、9ポンドコアの恩恵を感じられるので武器にすべきだと思います。ナノデス8・9ポンドコアの恩恵はピンキャリアだけでなく、トータルの扱いやすさも含まれています。ラインの取りやすさとポケットへの集約率が高く、ピンを弾く能力が高い。これこそ皆さんが求めているボールだと思います。

特記事項

∞4×9 HV Coreに名づけられた∞(無限)マークは「無限にピンを弾く」という意味も含めたネーミングであり、9ポンドコアならではのアクションを感じて頂けると幸いです。